

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700133		
法人名	株式会社 ワカバ		
事業所名	湖北台ケアガーデンワカバ(GH)		
所在地	千葉県我孫子市湖北台10-9-21		
自己評価作成日	平成27年1月23日	評価結果市町村受理日	平成27年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成27年2月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖北台ケアガーデンワカバでは、会社方針である「思いやり・労り」の気持ちを念頭におき、事業所スローガンとして「支え・愛」⇄支え合い、愛溢れるケアを実現出来るようお客様の生活のサポートをさせていただきます。いつも笑いが絶えない環境づくりが実現できるよう職員一丸となり日々取り組んでおります。小規模多機能型居宅介護サービスが併設されており、地域の方々も日々通所していただいております。皆様と自由にお話しやお食事など一緒に楽しい時間を共有していただける環境でもございます。お客様が地域の方々とお付き合いができて且つ、これからも楽しく安心して寂しさを感じない生活を送っていただけるホームを目指しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者、家族、職員、近隣住民と共に支え合う関係でいよという考えものと、ホームの理念(スローガン)を「支え・愛」とし、理念の実践に努めている。自治会などの活動が活発な地域で、ホームとも関係性ができており、自治会の行事やホームの行事で互いに連携している。ホームの利用者は併設されている小規模多機能型居宅介護事業所利用者と一緒に時間を過ごすことも多く、いつも賑やかである。利用者家族アンケート結果では、職員がいていい安心感があるなど、家族の満足度も高いことが伺える。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「支え・愛」をモットーにお客様、職員すべての方々が「笑顔」でいれる環境を築きあげるべく、職員一同「思いやり・労り」を念頭にお客様(ご本人・ご家族、関係者様各位)すべての方々へ誠意を持ってご対応させていただいております。	「支え・愛」というホームの理念を実践につなげるために、職員は利用者一人ひとりのニーズを把握し、気持ちに寄りそう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、イベント行事(ホーム主催・自治会主催)等、地域の方々との「接点」を持っていけるよう「参加していただいたり」「参加させていただいたり」して地域交流・地域との繋がりを大切にさせていただいております。	自治会を中心とした地域交流を大切にしており、美化運動や花いっぱい運動・避難訓練・盆踊りなどに参加している。ホームのワカバ祭には地域から多くの参加がある。また、子供110番の家を引き受けたり、地域の高齢者見守り活動に参加するなど、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、市内及び地域の高齢者問題、認知症独居者の対応についてなど、高齢者なんでも相談室様。自治会様及び防犯対策での「こども110番」拠点を行い、PTAの方々とも協力して情報共有させていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	委員様のご意見・ご要望及びご助言を頂戴して、改善出来る事は率先して実行していくよう努めております。特に地域交流については自治会長様と連携を図り、イベント行事への積極的な参加、災害対策での連携などの強化を含めて、地域に根差して安心して利用できるホームにしていけるよう強化しております。	運営推進会議には地域包括支援センター、市の高齢者支援課、地域住民などが参加している。また、目標であった運営推進会議への家族の出席が実現した。活発な意見交換がされており、地域とホームの連携も良好である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者支援課様・高齢者なんでも相談室(地域包括)・介護相談員様等のご指導を頂戴して、管理者のみならず現場職員全体でも連携を図り、情報共有させていただいております。	運営推進会議には行政の出席を得て、サービスの取り組みや実情を理解してもらっている。また、市の介護相談員を受け入れ、介護サービス事業者連絡協議会の高齢者見守り活動に参加するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間帯の玄関施錠はしていません。夜間帯はセキュリティの観点から施錠しております。身体拘束に関しては施錠など行動を制限してしまう行為であることを現場ケアを通じて職員に理解を促すとともにスタッフミーティングなどでも周知を促しております。	スタッフミーティングで、身体拘束にあたる事例をもとに話し合うようにしている。夜間に外に行きたいという利用者についても、家族了解のもと、夜、散歩に行くなど、拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市主催の勉強会に参加予定です。尚、事業所内では、入浴介助での身体の外傷確認や心身状態の観察を強化して個々の状況把握に努め日々注意を払っております。スタッフミーティングなどでも虐待防止への理解を深められるよう話題にするように努めております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成見後見人制度等現行は利用している対象者はいないが、小規模多機能のほうで対象者がいらっしゃるため、高齢者なんでも相談室の職員様を通じて学習させていただいております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お客様と契約書・重要事項説明書を読み合わせた上で、再度詳細説明してご了解をいただいております。不安や疑問点等についてもその都度ご説明させていただきご了解いただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やケアカンファレンスなどでご家族様のご意見・ご要望を頂戴して、そのご意見やご要望などスタッフミーティング等で職員全体で共有して出来る限り実行できるよう努めております。	管理者、職員は日頃より利用者の状況変化を家族などにこまめに伝えており、その際意見や要望も聞き、反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングを月1回実施しております。そこで意見・提案など出し合い職員で話し合い議論しております。事業所内で決定できない案件に関しては本社管理職会議にて稟議をかけて検討いただいております。	毎月のスタッフミーティングは職員の意見を出してもらい場となっており、活発な意見交換をしている。出された意見についても、ホームで決定できない事は本社に稟議をあげて反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の変動はあるが基本的に柔軟に業務が行えるよう担当制には出来る限りしないようにして全員がオールマイティに業務が行えるようにしている。尚、小規模多機能サービスと兼務になっている職員が殆どなので各自広い分野で活躍できる環境でもあります。尚、職員個々の力量・要望も考慮して配置しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量や考え方を把握出来るよう管理者のみならず現場リーダーを配置して現場職員が悩みなどの相談且つ、スキルアップの向上がしやすいようにしている。管理者⇄現場リーダーも密に連携を図り個々の力量等の把握をするよう努めている。尚、現場職員には使命感を養ってもらえるよう居室担当制(個々のお客様担当)にして仕事のモチベーションアップにもなるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内事業所分科会に参加して他事業所との情報交換等させていただいております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談にてご本人様の要望のみならず、職員からも提案させていただき、多少なりとも安心していただけるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様の状況も踏まえ、それと同時にご家族様との状況及び提案もさせていただき、必要なサービスを提供するよう努めております。安心して多種多様な相談もいただける関係構築の実現を目指し且つ、密に連絡のやり取りを行い、迅速に対応するよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメント時にご本人様とご家族様の意向を把握して、意向を出来る限り尊重していけるよう計画作成者、現場リーダーを中心に職員全体で話し合い、その時に必要なサービスだと考えられるサービスを検討して提案させていただき実行しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事・洗濯・掃除の準備や後片付けなどを一緒に行い、生活協同者であるのだと思っただけのよう職員全体で日々努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベント行事のみならず定期通院等でも事前にお知らせしてご本人様との関わりを増やしていき且つ、面会しやすいように環境設定していくよう努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様のお知り合いが面会に来られた際、ホーム内で気軽にお話しが出来るよう職員全体で意識して雰囲気づくりするよう心掛けております。	家族と過ごす定期的な外泊や正月の帰宅などを個別に支援している。また、手紙や電話をかける支援もして、大切にしてきた関係が継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は1Fフロアにて小規模多機能サービス利用者様も含めて一緒に過ごしていただいております。朝・夕の食事は必ずご入居者様同士で召し上がっていただけます。その際、性格や相性を把握して座席などを考慮し楽しんで過ごしていただけるよう心掛けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後についても、ご家族様に不定期ではあるが煩わしくない程度にお電話をさせていただき相談事もしくは、支援が必要でないかを確認するよう努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向を出来る限り尊重させていただいております。(帰宅願望、趣味・趣向等)但し、ホームでも対応しきれない事態が発生した場合には、ご家族様のサポートをお願いしながら出来る限りご本人様の気持ちを最大限尊重出来るように努めております。	職員は日常的な利用者との関わりの中から、本人の思いや意向の把握に努めている。気づいた事は業務日誌や連絡ノートに記載し、職員間での共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時により多くの情報を収集できるように努めております。また、ご家族様にもサービス提供時に疑問点等発生した場合には、その都度確認するようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「気付き」を大切に記録に残し、一人一人の様子や変化を把握出来るよう日々観察していくようにしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャー⇄居室担当者が月1回各々モニタリングを実施して、その各々のモニタリングシートをもとにケアカンファレンスを行い、ケアプラン進捗及び見直しを検討していくようにしております。その検討内容に準じてサーにス提供をしていくよう努めております。	職員が把握した利用者の希望などは支援経過に記載し、チームで検討して計画につなげている。また、ケアマネジャーが、家族に連絡し意向を聞き取っている。昨年より協力医の提案で、一年に一回、医師・家族・ホームの三者で話し合いの場を設け、医療と介護が更に連携した支援をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録(カードックス記録票)には日々の様子や変化を記録に残しております。特記事項などは「GH連絡ノート」に記載して情報共有を徹底しております。これらを活用して介護計画に反映しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様のみならず、ご家族様も含めてのニーズの変化に対応するべく、「出来る事」「出来ない事」をより明確に職員全体が認識して、誠意を持ってお客様に対応させていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催のイベント行事(盆踊り大会、防災訓練、餅つき大会等)に参加させていただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療に関わる重要な情報を把握出来るよう、主治医・管理者・ケアマネージャー・ご家族様及び場合によりご本人様も含めてカンファレンスを開催して「顔のみえる関係の構築」を主旨に場を設けてご家族様が安心感を持っていただけるように努めております。	入所時にホームの協力医をかかりつけ医とする人がほとんどである。訪問看護や訪問歯科とも連携しながら利用者の健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が来所した際、ご入居者様状態の健康状態を説明していただいております。また、場合により、電話連絡にて相談及び指示・指導等仰いで対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカー様と情報交換を行い、ご家族様の要望・意向等を反映して対応しております。入院先にも面会して可能な限り看護師様等に状況を聞いて情報収集しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時及び主治医とのカンファレンスにて意向を確認しております。その意向を出来る限り尊重して終末期を迎えられるよう医療関係者⇄ご家族⇄職員にて連携し意思統一を図り対応していくよう努めております。	「重度化した場合における指針について」で説明し、入居時に本人と家族の希望を聞きとっている。医師、家族、職員が連携して、本人の気持ちを尊重した終末期を迎えられるよう何度も話し合い、昨年3名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し職員がいつでも見れるよう準備してあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練等を実施して緊急時に対応出来るよう努めております。	消防署の立会いで初期消火訓練を実施するとともに自治会主催の防災訓練にもホーム全体で参加している。また、水、食料などの備蓄や発電機も備えている。	夜間想定など、様々な場面を想定した訓練の実施や地域との協力体制を確認することなどが必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に言葉使いについては注意を払うよう意識して対応しております。声のトーン・思いやりのある穏やかな言葉かけなどに気を配り、不快感を感じさせないようにとめております。プライバシーに関しては、個人情報保護法に基づき対応していくよう努めております。	内部研修で認知症について学び、利用者の心身状況を理解したうえで、一人ひとりを尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様⇄職員とで、どんな事でも話しが出来る関係づくりを大切に、思いや希望をきちんとお聴きするよう努めております。お聴きた話しを参考にして、より良い援助が継続できるようにしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様の「出来ること」を居室担当者を中心に職員職員全体で抽出していき、個々の役割として行っていくようにしております。その役割を中心にして毎日の屋間帯での余暇時間をどう過ごしたいかを確認しながら皆様の要望を反映して過ごし方を決定していくよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣など個々の好みに合わせて一緒にコーディネートさせていただいております。ヘアカットに関してもご本人の意向に合わせて訪問理美容もしくは、ご家族様がカットして下さったりして要望を尊重しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が付き添って一緒に行くよう支援しております。	料理、下膳、食器洗いなど、利用者ではできるところで参加している。職員と利用者は一緒に食事をしており、会話が弾んでいた。食器も季節に合わせて選ぶなど、食事が楽しくなるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量はその都度チェックしております。1日のトータルを集計して「多い・少ない」を判断して申し送り等で情報共有を図り注意を払っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食膳には必ず口腔ケア体操を実施して、食後口腔ケアしております。義歯の方・介助が必要な方々には職員が対応しております。また、訪問歯科診療が週1回きていただいております。治療及び予防対策などの指導もいただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握してトイレで排泄出来るように努めております。	利用者の排泄パターンを把握し、利用者のサインを見逃さないように捉え、さり気なくトイレ誘導をしている。ほぼ全員がトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事においては、食物繊維の多く含まれた食品及び乳製品等取り入れるように工夫しております。また、体操等運動を頻繁に取り入れ、予防していくよう心掛けております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定の曜日は計画しているが、体調不良等もしくは、外出してしまう場合などが生じた際は、出来る限り曜日を変更して入浴していただいております。午前・午後とも入浴出来るよう支援しております。	夜間以外は、できる限り一人ひとりの意向にそって入浴できるように支援している。入浴が嫌だという人については、時間をおいてタイミングをみながら声かけをするなど工夫して入浴につなげる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠が生じた場合には、お茶やコーヒー・ココアなど温かい飲み物をお出しして、お話を聴くなどして安心してベッドに横になっていただくようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬セット担当(夜勤者)・服薬介助者(早勤務者・日勤者)でのWチェックを徹底しております。服薬介助者は、落薬・誤薬のないよう注意を払っております。尚、症状の変化に対応するべく、必ず記録に残して変化が生じている場合には主治医に報告をして指示を仰ぐよう努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	四季折々に合わせたイベント行事や催しを計画し、出来る限り外出の機会を増やして気分転換していただくようにしております。ご入居者様の要望に添ったイベント行事や催しの計画立案して実行しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に出来る限り合わせて、散歩・買物・通院などに出掛けております。自治会様主催のイベント行事(盆踊り・防災訓練・餅つき大会)などにも積極的に参加しております。	近隣への散歩や買い物に出かけている。また、自治会主催の盆踊りにも参加しており、利用者は浴衣を着て化粧をして出かけている。	

【評価機関】



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	しまい込んで忘れてしまうご入居者様が多い為、ホームの金庫にて「お小遣い金」としてご家族様からお預かりしたお金を管理しております。また、外出時には、職員管理のもと、ご本人様にお渡しして対応しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じてお電話出来るように支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーション時に制作した作品などを玄関などに展示しております。証明も暖かい色合いの照明を選んで穏やかな雰囲気づくりを演出しております。特に「香り・臭い」を意識してホーム内での不快感を感じさせないように心掛けております。(特に玄関・WC・キッチン)	1階が小規模多機能型居宅介護事業所で2階がグループホームになっている。ホームは天井が高く天窓が設置されており明るい。また、室温も適切で気になる音や匂いもない清潔な空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1F・2Fフロア・食堂・和室など自由に利用出来るよう配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真・昔慣れ親しんだ愛用品などを継続して使用していただき安心して過ごしていただけるよう居室担当者が中心に演出しております。	居室は、一人ひとり家族の写真や家具、仏壇など大切な品を持ってきており、本人が安心して暮らせるように職員と家族で支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり畳んだりする事が安全に出来る環境にしております。また、残存機能を生かし入浴など出来るよう浴室も整備しております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所